

## 「保護者と学ぶところとからだの学習」の取り組み —特別支援学校での実践から—

The efforts about “learning about the mind and body with parents”

岡 田 将 子\*

OKADA Masako

吉 川 はる奈\*\*

YOSHIKAWA Haruna

【キーワード】 特別支援学校、性に関する指導、保護者との連携、保護者学習プログラム

### 1. はじめに

学校現場において児童生徒の安全を揺るがす性の被害を防ぐために、自らを守るための学習は必要とされている。本校においても保護者から「我が子が性トラブルの被害者になったり、加害者になったりしないだろうか」という不安と心配の声を聞くことがある。今年度新たな取り組みとしてスタートした「保護者学習プログラム」のアンケートでも「今後、性に関する指導について聞いてみたい、学習したい」という回答が複数寄せられている。

一方、知的な障害や発達の障害がある児童生徒は、耳で聞いて意味を理解することや抽象的であまいなことを理解することが苦手で、見通しやイメージが持ちにくく、嫌な経験が記憶に残りやすく、気が散りやすいなど、学ぶ上での困難をもつ。そのような子どもたちにとって、「性の話」を自然なこととして受け入れやすく、さらにその下地となる、自分自身のボディイメージを身に着けさせる良い方法はないだろうかと考え、2018年5月から保健教育「ところとからだの学習」に取り組んでいる。この実践については、内容の一部を令和2年度日本教育公務員弘済会埼玉支部に中間報告として発表した。そして、その報告書の最後に今後の課題として、「保護者との連携」をあげたところである。<sup>1)</sup>

社会で自立を目指す児童生徒が、安心、安全な生活を送る上で欠かせない学びを繰り返し行い、日常に根づかせるための取り組みを保護者と一緒に協力して取り組むことはできないだろうか。

このような問いを持ち、保護者への発信と保護者からの声を集め、さらに大人の学び場の整備を目指した実践について検討していく。

### 2. 「ところとからだの学習」の実践

2018年5月から取り組んでいる本校の「ところとからだの学習」は、特別支援学校の児童生徒の学びの特徴に合わせた①視覚的に②具体的・体験的に③繰り返し

可能④見通しをもてる⑤楽しく の5つの特徴をもつ実践を目指している。学習内容を具体的に以下に示す。

#### (1) 視覚的な特徴

- ・「きく」の時間の約束として、「目と耳と心をよく使って聞いてください。」の言葉を手の動きとともに伝え、「ところとからだのいつもの時間」が始まることを知らせ、こちらに注意が向くようにした。
- ・保健教育の内容のキーワードを廊下の掲示板に貼り、記憶に残るようにした。

#### (2) 具体的・体験的な特徴

- ・月ごとの話のテーマを、季節や行事等を身近に感じるものにし、生活の中でのからだに関する内容にした。(表1)
- ・できるだけたくさんの体の部位をさわるようにした。
- ・できるだけたくさんの触り方や力加減を経験できるようにした。
- ・話の途中で児童生徒が前に出て活動できる場面をつくり、参加する体験を通して理解が深まったり、記憶に残ったりするようにした。
- ・体の外から体の中に意識が向くように、体の変化や動き、働きについての話をした。
- ・上を向いた時の首の前側を触り、皮膚の伸び縮みを感じる体験や、「おー」と言う時と言わない時の「のど」の振動を比べる体験をした。
- ・体の中には「ち(血液)」があって、血管を通して、体の中を流れていることを話した。
- ・体の中に入った空気は、体の中の「ち(血液)」と一緒に体の中を流れていくことを話した。  
また、腹をさすりながらその中にある「腸」の働きについて話した。
- ・体の中にある二つあるところの一つの例として、「肺」の役割とその動く様子を触って確かめる体験をした。

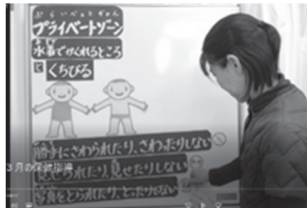
\* 埼玉大学教育学部附属特別支援学校

\*\* 埼玉大学教育学部生活創造講座

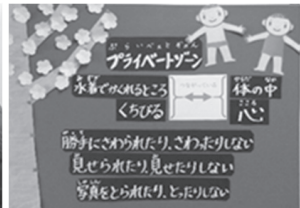
### (3) 繰り返しの特徴

#### 1) 内容の繰り返し

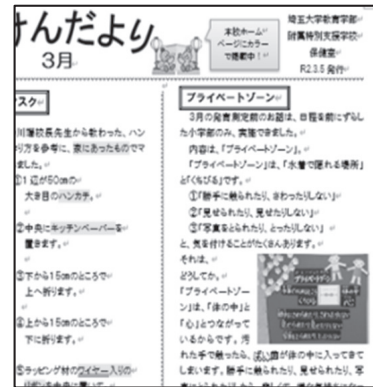
保健教育の内容のキーワード(写真1)を保健室前の廊下の掲示板に貼る(写真2)＞その掲示板を写真に撮り、保健だよりに掲載、保健だよりで保健教育の内容を紹介する(図1)＞その保健だよりを学校ホームページにカラーで掲載するというパターンにし、日数が経過したあとでも繰り返し内容を振り返る機会を作るようにした。



【写真1】



【写真2】



【図1】 保健指導の内容を紹介した保健だよりの一部

#### 2) 手順の繰り返し

月1回の発育測定の前、児童生徒に養護教諭が保健教育をした。毎回共通点のある手順で繰り返した。

#### 3) 自分の体を触る体験の繰り返し

1年を通して、自分のからだの多くの部位を触り確認したのち、プライベートゾーンを確認するようにした。本校の児童生徒全員がプライベートゾーンを理解して卒業できることを目標とした。

【表1】「ところとからだの学習」のテーマと触る部位と触り方<sup>1)</sup>

月	テーマ	触る部位	触り方
4	(2019)「きく」の時間の約束	こめかみ	指の腹を、そっとあてる。
	(2020)手の洗が残し	指先	右手の指先と左手の指先を、トントン合わせる。
5	(2018・19)ケガの予防	もも、ふくらはぎ、背中	手のひらで、軽くこする。
	(2020)疲れ目、肩こり	肩	手のひらを、そっとおく。
6	むし歯予防	(2018・19)頬	手のひらで、ポンポンたたく。ひっぱる。
		(2020)肩	指先で、くるくる動かす。
7	熱中症予防 (プライベートゾーン)	首、わきの下、ものの付け根	手のひらで、やさしくつかむ。
			手のひらを、ピタッとあてる。
9	手洗いうがい	手	両手を、こすり合わせる。
		首の前側	指の腹を、そっとあてる。
10	良い姿勢	手	指の腹で、つまむ。
		頭	手のひらで、やさしくなでる。
11	いい歯	肩甲骨	片方の手を肩側から、もう片方の手を腰側から、合わせる。
		口のまわり	指の腹で、トントンふれる。ピタッとあてる。
12	防寒(血液の流れ)	首、手首、足首	手のひらで、ぴたーとふれて、ふわーっと離す。 <sup>2)</sup>
1	笑う	(2018)腹	指の腹で、そっと押す。
		(2019・2020)腹	手のひらで、「の」の字を書くようにさする。
2	二つあるところ	(2018)肩	手をグーにして、トントンたたく。
		(2019)肺(首と胸の間)	手のひらを、そっとあてる。
3	プライベートゾーン	(2020)肩	手のひらで、横から包む。
		(どこもさわらない)	(まもるポーズ <sup>1)</sup> を作る)写真4

#### (4) 見通しをもてる特徴

- ・「今からやること」を確認し、発育測定の時間の流れの見通しが持てるようにした。
- ・「きく」の時間の流れを「テーマ発表＞テーマについての話＞テーマにちなんだ体の部位を触る＞話の内容を振り返る＞テーマを確認する」という、行って戻るパターンにし、元の場所に戻るという安心感を得るとともに、「きく」の時間が記憶に残るようにした。



【写真4】<sup>(1)</sup>

#### (5) 楽しくの特徴

- ・小学部1年生から高等部3年生まで同じ話を聞くので、幅広い子どもたちの実態に合わせた、安心感を持ちながら、子どもから大人まで楽しめる絵本のような話になるよう、シナリオを考えた。
- ・からだの部位を触るモデルは、養護教諭だけでなく、出来るだけ多くの教職員にも参加してもらうようにした。学校やクラスで馴染みのある人にポーズをつくってもらうことで、身近に感じかつ楽しくできることをめざした。たとえば写真4はまもるポーズをつくる教員である。

### 3. コロナ禍の「ところとからだの学習」

社会の感染状況から対面での実施は中止となったが実践を継続していくためにコロナ前と同じ特徴がでるような学習動画を作成し、本校PTAのホームページの会員専用ページに掲載した。

児童生徒が動画視聴の集中を最後まで途切れさせない工夫として、また、話の内容を印象付けるために、テーマにちなんだ体の部位を自分で触る体験をして自分のボディイメージを作るところでは、教職員による楽器演奏の音楽に合わせて触るようにし、「楽しく」の特徴により力を入れた。(写真5)メロディーや歌はオリジナルで、触る場所や触り方に合わせて作詩作曲した。



【写真5】

#### 4. 対話型の保健だより

##### (1) 令和2年度

動画配信による保健教育では、児童生徒の反応を瞬時に受け取ることができないため、対話型の保健だよりにするべく家庭からの返信欄を作成して双方向のやりとりにつなげた。(図2)

切り取り線

【保健指導動画メッセージシート】

提出先: 養護教諭

①一番印象に残っているシーンはどこですか？

.....

.....

②動画を見ている子どもの様子を教えてください。

.....

.....

③その他、感じたことを教えてください。

.....

.....

小・中・高 年 お名前

【図2 保護者からの返信欄に掲載した保健だよりの一部】

2020年7月から2021年3月の6ヶ月間に保護者から18通のメッセージシートが届いた。

内容を表2に整理した。子どもが集中してみている姿や喜ぶ姿、からだの部位の名前をいいながら触り、リズムをとりながら参加する様子もみられ、コロナ禍の家庭での参加が確認できた。

【表2 保護者からの返信のまとめ】

##### ①保護者が一番印象に残っているシーン

- ・ダンス
- ・体操
- ・まもるポーズ(写真4)<sup>(1)</sup>
- ・色
- ・歌
- ・楽器
- ・先生の登場・回答(手洗い)
- ・説明  
(むし歯、よく噛む、プライベートゾーン、三つの首)

(次頁へ続く)

## ②動画を見ている子どもの様子

- ・手をたたいて喜んでいました。
- ・ニコニコと笑っていた。
- ・先生の名前を呼んでいた。
- ・自分のむし歯を気にしていた。
- ・イラストを指さしていた。
- ・楽しげにしていた。
- ・真似していた。
- ・部位の名前を言いながら体をさわっていた。
- ・一緒に歌っていた。
- ・パネルをじっくり見ていた。
- ・始まると椅子に座った。
- ・真剣に見ていた。
- ・楽しみにしている。
- ・知っている先生の登場に大喜びしていた。
- ・興味を持って見ていた。
- ・最初から最後までしっかり見ていた。

## ③その他感じたこと

- ・こどもへどうやって説明しようかと考えることをイラストや歌、ダンスでわかりやすく作成されている。
- ・本人はまだわからないことがあるが、たのしくみているので、少しずつ学んでくれたらと思っている。
- ・休校中に繰り返し見せたい。
- ・とてもゆっくりでわかりやすい話し方でよい。
- ・わかりやすく、楽しく、記憶に残る。
- ・親もなるほど！と勉強になる。
- ・子どもにみせると「もっと」と言われるので、私だけ見ている。
- ・見る力がついてきたと感じる。
- ・興味を持ちやすい。
- ・繰り返し教えて、身に付けてもらいたい。
- ・根気よく教えていきたい。

保護者の感想からは、性に関することの伝え方や説明の仕方に迷う実態も語られ、また根気よく伝えたいという感想もあった。繰り返し、家庭で実践してもらうことでより児童生徒の学びを深めることにつなげたい。

## (2) 令和3年度

令和2年度のコロナ禍での学習方法の工夫や課題をふまえ、2021年6月からは、保健だよりにより新コーナー「ところとからだの学習と一緒に学びましょう」をスタートさせた。前年度作成した保健教育動画を紹介するとともに、「ところとからだの学習」と性に関する指導の関係性(表3)を保護者にていねいに説明するコーナーを設けた。保健だよりの返信欄も変更を加えた。保健だよりは本校ホームページ<sup>3)</sup>の「保健室より」のページに掲載中である。保護者に各月のテーマとして伝えたい意図をていねいに説明し、性に関する指導の学習

内容を紹介している。家庭で実践してもらうために伝えたい意図を保護者に理解してもらうことは重要と考えている。

【表3 「ところとからだの学習」と性に関する指導の関係】

令和3年	ところとからだの学習テーマ	性に関する指導
6月	熱中症	プライベートゾーン
7月	爪切り	プライベートゾーン
9月	姿勢	身だしなみ
10月	歯をきれいにする	快・不快 <sup>4)</sup>

## 5. 動画の再生回数

本校PTA ホームページの会員専用ページに掲載された動画の再生回数を調べた(表4)。初回4月と9月の動画再生回数は、本校家庭数の58を超えているが、それ以外は、家庭数の半分ほどになっている。教職員による再生数も考えると家庭での視聴は家庭数の半分以下と考える。

保護者のメッセージシートからは「高評価」が読み取れるが、毎月継続して繰り返し利用する家庭と、一時的に部分的な利用をする家庭もある。先述したように自分の体を自分で触る体験を繰り返して、自分のボディイメージを作ることにつなげることを考えれば、内容や説明の仕方を改善し、年間を通じて全体を活用する家庭がより増えるような改善が必要であるともいえるだろう。

【表4 2020年4月～2021年10月の動画視聴数】

4月	手洗い 指の運動	小 77回
		中 61回
		高 75回
5月	目の体操 肩の体操	小 32回
		中 31回
		高 24回
6月	むし歯予防 顔の体操 肩の体操	43回
7月	熱中症予防	43回
9月	手洗い	61回
10月	良い姿勢	27回
11月	いい歯	32回
12月	三つの首	30回
1月	声を出して笑う	37回
2月	二つあるところ	44回
3月	プライベートゾーン	34回



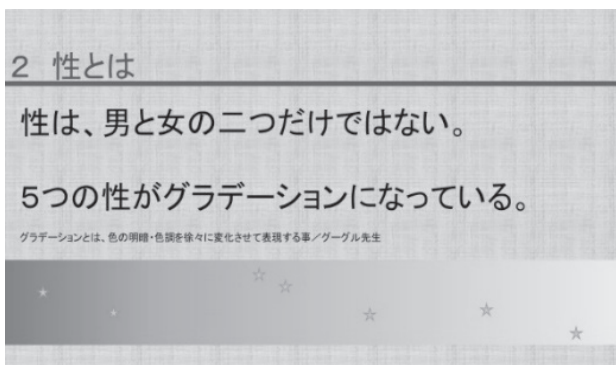
## 6. 保護者学習プログラムの活用

令和3年度学校全体での新たな取り組みとしてスタートした「保護者学習プログラム」は、子どもたちの成長を保護者が様々な切り口から学ぶことで、①保護者がどの学部にも所属していても「子どもの成長をイメージできる」ようになること②成長に伴う悩みや疑問等の解決の糸口となることを目的としている。全8回、1回40分間の講義と10分間の質疑応答のプログラムで、今年度のテーマは「情報社会」「生活習慣」「障害理解」「性に関する指導」「進路」「ICT」「社会資源」「栄養」の8項目となっている。

10月下旬の「性に関する指導について」は養護教諭が講師となり、対面参加8名、オンライン参加9名、運営4名でハイフレックス方式での実施となった。

対話型保健だよりで性に関する指導について伝えつつ、このプログラムでは、「大人が性のイメージを変える」ことを目標にした。準備したスライドの一部と説明した内容を以下に示していく。

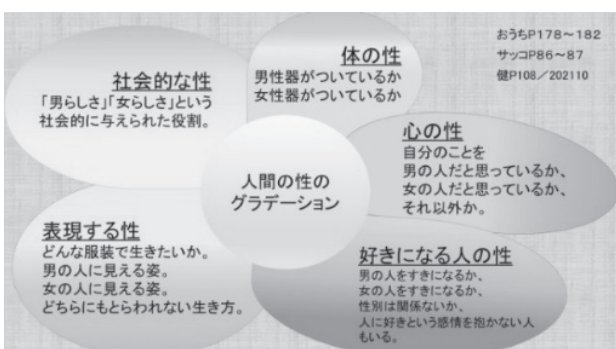
### 【スライド1】



### スライド1の説明

人間の「性」は、男と女の二つだけだと思っていたが、そうではなく、5つの性の要素がグラデーションになっていることをまず伝えた。そのグラデーションの上のどこかに、私たち一人一人が存在していると考え、一人一人みんな違う性を持っているということになる。<sup>5) 6) 7)</sup>

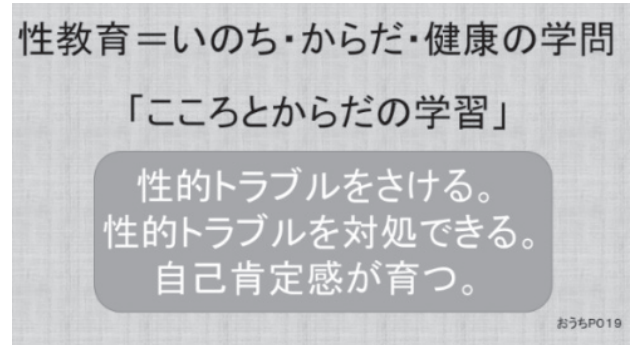
### 【スライド2】



### スライド2の説明

①体の性、②心の性、③好きになる性、④表現する性⑤社会的な性、これらの「5つ」の要素が人間の「性」のグラデーションを作っていることを伝え、<sup>5) 6) 7)</sup> 大人の固定的なイメージをかえることにつなげた。

### 【スライド3】

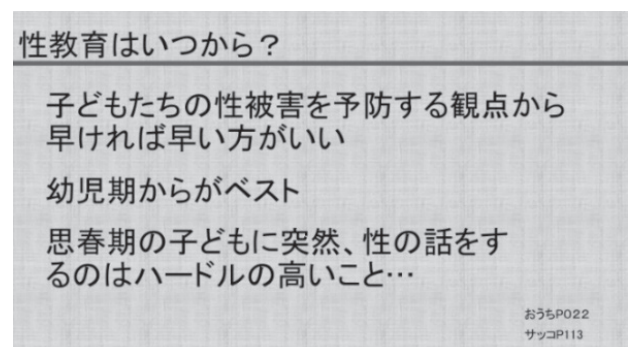


### スライド3の説明

性教育は、いのち・からだ・健康の学問である。今まで性教育といえば「はずかしいもの」「隠すべきもの」「ポルノ」「セックス」などをイメージしてきたが、「こころとからだの学習」というタイトルから、「性的トラブルをさける」「性的トラブルを対処できる」「自己肯定感が育つ」学習にイメージを変えていきたい。<sup>5)</sup>

また、次のスライドでは、質問となりそうな内容をとりあげ、説明を加えた。その中には過去に保護者から寄せられた不安や疑問も含んでいる。

### 【スライド4】

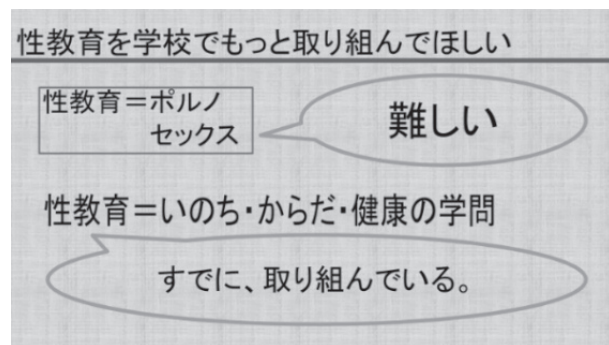
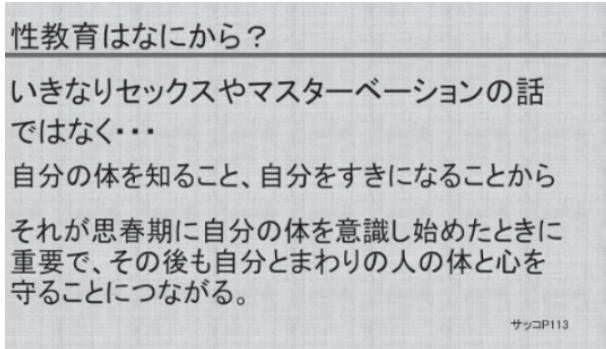


### スライド4の説明

性教育を始めるのは幼児期からがベストと書いてある書籍があるが、<sup>5) 6)</sup> 私は「生まれたときから始まっている」と考えている。保健だよりで「基本的生活習慣は性のコントロールの基盤を作る」<sup>8)</sup>と書いている。生まれたときから食事、睡眠、排泄、入浴、洗顔、爪切り、身だしなみは始まっているからだ。

次に、日常の学校での「ところとからだの学習」で自分の体を自分で触る体験を繰り返して、自分のボディイメージを作ることにつなげていくことの重要性を解説した。

【スライド5・6】<sup>6)</sup>



スライド5・6の説明

大人がもつ性に関する指導の「恥ずかしい・かくすべき」といったイメージに合わせた性教育に取り組むことは、難しく感じるが、イメージを変えてみた後の性教育は、実は本校でたくさん取り組まれている。各学部の性教育につながっていると感じた主な取り組みをひとつずつ紹介すると、小学部では「リズム運動」を紹介したい。友達と先生と一緒に全身を使って空間を前後左右上下に動き、自分の体を知っていく。また、1年生から6年生までの成長段階が違う子どもたちが同じ空間で一緒に体を動かすことで、人の体の動きをゆっくり、繰り返して学んでいる。中学部では、グループ別に男子と女子の体の変化を座学で学んでいる。高等部では、メンテナンス班の生徒たちが道具を使いこなすために必要なボディイメージを強めるため、作業前に自分の体の動きを意識するエクササイズを取り入れている。本校の保護者は熱心に授業の様子を見学に来られている。その時に性教育の視点で参観し、性教育とのつながりを感じる取り組みがあったら是非共有したいことを伝えた。

第4回保護者学習プログラム終了後のアンケート13名分を表5にまとめた。

【表5 プログラム終了後アンケートのまとめ】

性に関する指導に対する イメージの変化が感じられた回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと身近なところから考えて取り組んでいこうと思う。</li> <li>・「プライベートゾーン」＝「大事な場所」ということから話していきたい。</li> <li>・普段から性に気を付けて話していきたい。</li> <li>・性について男と女の二つだけではないというのが印象的だった。</li> <li>・今は、多様な性があるということなので、視点を変えていきたい。</li> <li>・自分の体を知って、好きになることから始めたい。</li> <li>・体の部位を教えることの大切さ等を再確認した。</li> <li>・性教育は、親も勉強していくべきことだと学んだ。</li> <li>・私自身ももっと勉強していきたい。</li> <li>・今後も学習したい。</li> <li>・これまでの性教育についてのイメージがガラリと変わった。</li> </ul>

性に関する指導のむずかしさが感じられた回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育と聞くと難しくとらえてしまう。</li> <li>・親としても教え方等を考えてしまう。</li> <li>・男の子の性教育、わかりやすくどう伝えればよいのか。</li> <li>・社会に出ても続いていく内容。</li> <li>・学びの機会が孤独、独学になりがち。</li> </ul>

その他の回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から丁寧に性教育につながるように指導をしてくれているのがわかった。</li> <li>・保健日よりだけでなく、さまざまな取り組みをしていることを知った。</li> <li>・性教育のことをもう少し聞きたい。</li> <li>・それぞれの学年に合った対応などもう少し詳しく聞きたい。</li> <li>・沢山の保護者の方と共有できる内容をもっと詳しく聞きたい。</li> <li>・幅広い年齢の子を持つ保護者に合った内容だった。</li> </ul>

## 7. 成果と課題

### (1) 成果

- ・2018年5月から取り組んでいる本校の「ところとからだの学習」は、改善を加えながら繰り返し、3年目になり、継続している。
- ・対面から動画に変わり、児童生徒の反応を直接受け取ることが出来なくなったものの、楽器演奏や音楽に合わせてより楽しくその時間を過ごせるように動画を作成することで、興味を持って視聴している様子が保護者のメッセージシートから読み取ることが出来た。
- ・保護者プログラムの1回に位置付けられ、その中でところとからだの学習の意図を説明し、保護者の性に関する指導に対するイメージの変化が事後アンケートから読み取ることができた。

### (2) 課題

- ・作成した保健教育動画は、動画共有サイトに限定公開として保存されており、PTA ホームページの会員専用ページにはそのURLが掲載されている。そのため保健指導動画を家庭で視聴する場合、インターネットにつながっている場所で視聴することになる。保健教育動画を見た後で別の動画に気が散ったり、もっと、繰り返し見るということにこだわってしまったり、動画視聴における学びの特徴も視野に入れて活用していく必要があると考える。
- ・保護者プログラムでは、参加者の「性に関する指導」のイメージに変化が見られたものの、教え方の難しさについては誰もが抱えている課題であるといえる。今後は、保護者からの「性に関する指導のむずかしさが感じられた回答」に答えられるような大人の学び場を整備するとともに、大人が学ぶ機会を増やしていきたい。そして、「ところとからだの学習」を保護者と共に進め、子どもたちの「性的トラブルをさける力」「性的トラブルを対処できる力」「自己肯定感」を育てていきたい。今後、より改善を重ね、本校外にも汎用できるようにしていきたい。

### 【注釈】

- <sup>(1)</sup> 「まもるポーズ」。右腕と左腕をクロスさせ、×(ばつ)に似ているが、×ではない、右腕と左腕がくっついていない(＝さわっていない)ポーズ。

### 【参考文献・引用等】

- <sup>1)</sup> 岡田将子 2020 特別支援学校におけるところとからだの学習～性に関する指導につながる保健指導をめざして～ 日本教育公務員弘済会埼玉支部
- <sup>2)</sup> 今野義孝 2017 発達に障害のある子どものためのとけあい動作法 明治図書
- <sup>3)</sup> 埼玉大学教育学部附属特別支援学校ホームページ <http://fuyou.saitama-u.ac.jp/>

- <sup>4)</sup> 千住真理子 伊藤修毅 2015 生活を豊かにする性教育 クリエイツかもがわ
- <sup>5)</sup> フクチマミ 村瀬幸浩 2020 おうち性教育はじめます KADOKAWA
- <sup>6)</sup> 高橋幸子 2020 からだところ研究所 リトルモア
- <sup>7)</sup> 健 2021.10 日本学校保健研修社
- <sup>8)</sup> 國分聡子 2017.8 平成29年度第一回校長会主催専門研修会「軽度知的障害の生徒の性教育」～よりよい青年期を過ごすために～ 講演記録